



第4会場 ● 4F 大研修室

■司 会／堺 裕明 福岡県教育庁筑豊教育事務所 主任社会教育主事
脇黒丸陽一 鹿児島市教育委員会教育部生涯学習課 課長

分科会の進め方

10:45~10:50

1 いつでも、誰でも、どこからでもの総合的子育て支援プログラム
-「子育て支援センターゆめ・ぽけっと」の次世代育成支援-

10:50~11:20

黒木 由美(佐賀県佐賀市 子育て支援センター「ゆめ・ぽけっと」 所長)

サービスの対象は就学前の乳幼児とその親。平成19年開館。市街地中心に拠点を置き、市内全域の26公民館と提携して、「いつでも、誰でも、どこからでも」をサービス原理として、ひろば事業、相談事業、交流発信事業、子育て支援団体の育成・強化・一時託児など子育て支援プログラムを総合的に展開する。職員は全員保育士または保健師の専門職。開設2年8ヶ月で利用者はすでに10万人を突破している。

2 石窯を核とした食育によるコミュニティ形成の未来企画
-宇城市「まちづくり1%」事業による地域交流拠点づくり事業-

11:25~11:55

内富 裕登(熊本県宇城市立豊福小学校 平成21年度PTA会長)

地域交流の活動拠点としての地域内の「小学校」を開放して頂き、校内にピザやパンを焼く石窯を手作りで新設。地元食材を生かした食育を中核として、地域における老若男女の交流活動を展開する。達成すべき目標は、①地域内交流の促進、②地産地消と食育の推進、③青少年の健全育成である。平成22年からの本格実施に向けて、今回は、その事業についての考え方と計画の概要を報告する。

3 絵本でつなぐ子育て支援の輪
-「出会い」「継続」「地域ぐるみ」をキーワードに-

12:00~12:30

安光真裕美(山口県山口市 おはなし玉手箱 代表)

兜坂 招雄(山口県 山口市秋穂地域交流センター コーディネーター)

読書推進を核とした子育て支援活動を地域のコミュニティセンター、公民館図書室、小中学校、保健センターなどを拠点に展開している。一人から始めた絵本の読み聞かせをグループ化し、その後、子どもの成長に寄り添うようにさまざまな活動グループが生まれ、それぞれが連携して活動を継続している。また、地域の幼保育園と連携して、絵本の読み聞かせを取り入れた「子どもの生活リズム向上プロジェクト」にも取り組み、地域ぐるみの子育て支援へと広がっている。